

町村をむすぶ

MIYAGI 宮城 町村会だより

<https://www.miyagi-ck.gr.jp>

2022

10-11

Vol.511



地産地消のそば屋「前小庵」

川崎町では、5つの小学校を閉校。現在、すべてが利活用されています。

写真は昨年閉校した前川小学校ですが、そば屋「前小庵」としてオープン。地産地消をモットーに地元のそばや野菜を使った天ぷらを提供します。ぜひご賞味ください！

町村会のうごき

共済事業アレコレ

町村通信 21 ～松島町～

『松島イノベーションヒルズ』始動

松島町に新たな工業用地が誕生します!!

写真・文／川崎町地域振興課 提供

宮城県町村会 創立100周年 記念式典

宮城県町村会創立100周年記念式典

―町村自治の振興発展の歩み―

令和4年3月24日、宮城県町村会は創立100周年を迎えました。それを記念し、8月24日ホテルメトロポリタン仙台において、宮城県町村会創立100周年記念式典を開催しました。

村井嘉浩宮城県知事、菊地恵一宮城県議会議長、荒木泰臣全国町村会会長をはじめ、宮城県選出の国會議員や市町村長など97名が出席いたしました。式典は午後2時から開始され、始めに櫻井会長が式辞を延べました。その中で、大正から始まる本会の100年の歩みを紹介するとともに、東日本大震災からの復興や、新型コロナウイルス感染症など喫緊の課題に対し、町村が的確に対応し、地域振興と発展に引き続き全力で取り組む決意を表明しました。



感謝状を贈呈された鈴木勝雄様



村井嘉浩宮城県知事

式辞のあと、これまで会長として地方自治の発展に尽力された歴代会長の方々に対し、感謝状の贈呈を行いました。

【受賞者】

- ・内田 鉄夫 様（元松島町長）
- ・佐々木功悦 様（元美里町長）
- ・鈴木 勝雄 様（元利府町長）
- ・村上 英人 様（蔵王町長）
- ・佐藤 仁 様（南三陸町長）

櫻井会長から、今回の式典にご出席された受賞者の方々へ感謝状を贈呈しました。

続いて、ご臨席いただいた来賓の中から次の方々にご祝辞をいただきました。

【来賓者祝辞】

- | | |
|--------------|---------|
| ・宮城県知事 | 村井 嘉浩 様 |
| ・衆議院議員 | 伊藤信太郎 様 |
| ・宮城県議会議長 | 菊地 恵一 様 |
| ・全国町村会長 | 荒木 泰臣 様 |
| ・宮城県市長会長 | 伊藤 康志 様 |
| ・宮城県町村議会議長会長 | 菊池 修一 様 |

続いて、本日ご臨席いただいた来賓及び祝電についてご紹介するとともに、感謝状受賞者を代表して鈴木勝雄元利府町長が謝辞を述べられ、厳かで格調高い雰囲気の中、宮城県町村会創立100周年記念式典を閉会しました。

宮城県町村会創立100周年 記念式典祝賀会

式典に引き続き、午後3時から祝賀会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の流行状況を勘案し、着席人数を制限して実施いたしました。櫻井会長のあいさつに続き、齋副会長の開宴の挨拶から始まった祝賀会は、終始なごやかなムードに包まれながら進行しました。

歓談の席上、秋葉賢也復興大臣を始め、宮城県選出の国会議員の方々からお祝いやげましの言葉をいただくなど、格調高い祝賀会となりました。

最後に相澤副会長の閉宴の言葉でなごやかな中で閉宴となりました。



秋葉賢也復興大臣

式辞

宮城県町村会長

櫻井 公一

本日ここに、宮城県町村会創立100周年記念式典を挙行するにあたり、宮城県内の町村長を代表して式辞を申し上げます。

村井嘉浩宮城県知事、荒木泰臣^{やぶみ}全
国町村会長をはじめ、ご来賓の皆様方、市町村長並びに関係者の皆様方におかれましては、公務ご多用の中にもかかわらずご臨席を賜わり、厚く御礼申し上げます。

また、このたび感謝状を受賞されます、歴代会長の方々は、本会の発展と町村自治の振興発展にご尽力を賜わり、多大なるご功績を残されました。心から感謝とお祝いを申し上げますとともに、今後とも地方自治の振興と発展に向けたご指導とご助言を賜わり、ご健勝で活躍されますようご祈念申し上げます。

さて、本会は、大正11年3月24日、宮城県内の町村長の統一連絡を図り、町村事務並びに行政に関する、諸般の事項を研究協議することを目的に、「宮城県町村長会」として発足いたしました。

以来、大正、昭和、平成、令和の時代を変遷し、幾多の災害や困難に直

面いたしました。が、町村長が一致団結して着実な歩みを進め、本年3月24日に創立100周年を迎えることができました。

戦後の我が国は、敗戦による祖国の荒廃から復興に心血を注ぐとともに、戦後の新憲法による新たな地方制度と市町村の形が構築され、我が国の政治経済、文化等すべてが新生・再出発し、奮闘努力を重ねた時代でもありました。

高度成長期を迎え、我が国は工業を中心に飛躍的な発展を遂げましたが、一方で公害や過疎・過密問題なども発生し、地方では人口減少期を迎えるなかにあつて、町村が直面する課題は複雑多様化し、医療や社会福祉の充実、道路整備等社会資本の整備、米の減反政策への転換などが大きな課題となりました。

平成に入ると、市町村合併の協議が全国的に展開されましたが、本県においては61町村から現在の21町村にまで減少することとなりました。

併せてこの時期に、地方分権の観点から、国庫補助負担金改革、税源移譲、地方交付税改革を内容とする三位一体改革が進められ、町村を取り巻く環境は、大きな変革の時代に突入するとともに、人口減少や少子高齢化は全国的に進み、地方創生は今日に至るまで、町村の行政運営の大きな課題となっております。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災は、多くの尊い人命^{いのち}と財産を一瞬にして奪い去り、絶望の極みに陥りました。震災から11年が経過し、復興の完遂まであと一歩というところまで参りましたが、被災住民の心のケアとコミュニティの再興、まちの賑わいの創出はこれからも取り組んでいかなければなりません。

さらに、新型コロナウイルス感染症は、我が国でもかつて経験したことのない大流行となり、いまだ収まる気配がなく、国・県・市町村が一丸となつてこの難局を乗り越えるため、感染症対策に取り組んでいるところです。

一日も早い収束を願うと共に、アフターコロナを見据えた地域づくりに全力で取り組んでいくようではありませんか。

本会は、今後とも各町村の先進な取り組みを共有し、国や県との連携強化を図り、喫緊の課題に的確に対応し、町村行政の発展に引き続き取り組んでまいり、決意でありますので、皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

結びに、創立100周年を迎え、本会発展のためにご尽力いただきました先輩各位に対し、深甚なる敬意を表するとともに、宮城県及び県内市町村の益々のご発展、地域住民の幸福と福祉の向上、ご臨席の皆様の方々の健康とご繁栄を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

政務委員会・町村長会議

10月14日、県自治会館において

政務委員会・町村長会議を開催

10月14日、県自治会館で令和4年度第2回政務委員会を開催しました。はじめに政策説明として「デジタル田園都市国家構想基本方針及び令和5年度概算要求等」について、デジタル田園都市国家構想実現会議事務局の白水参事官から説明がありました。

その後、8月31日に政務委員会幹事会（町村企画財政課長等で構成）で審議し、委員会へ提案された「令和5年度県予算編成並びに施策に関する要望事項」の審議を行いました。主な事項は次の通りです。

●総務建設部会

東日本大震災復興関連事業、町村財政基盤の強化、地方創生の推進、デジタル化施策の強化推進など。

●産業経済部会

令和4年7月豪雨の被害に対する復旧、農林水産業の支援と振興策の充実、広域観光の充実に向けた支援、地域産業の育成など。



●厚生文教部会

再生可能エネルギーによる地域振興、新型コロナウイルス感染症の対策強化、子育て支援や社会福祉対策、学校教育環境等の充実など。

委員会では、町村長から要望の修正案や提案など、意見が出されました。この審議結果をもとに要望内容を修正し、11月10日、宮城県知事・宮城県議会議長に対し要請活動を実施することになりました。

政務委員会に引き続き、令和4年度第2回町村長会議が開催されました。会議に先立ち、10月5日、令和4年度総務大臣表彰を受賞された滝口茂柴田町長に対し、本会から記念品の贈呈を行いました。会議では、令和4年7月豪雨の被害の大きかった松島町及び加美町に災害見舞金を送ることが決定されました。また、令和4年度宮城県町村会一般会計ほか1会計の令和

4年度補正予算、令和5年度宮城県町村会の会費賦課徴収方法について審議され、原案の通り決定されました。

審議後、松島町・加美町に対し、本会から災害見舞金の贈呈が行われました。

その他、全国町村長大会、JETRO仙台貿易センターの運営経費負担金、ALPS処理水の放出にともなう風評被害の賠償に関する検討状況などについての概要説明がありました。



記念品を受け取る滝口茂町長

令和4年度総務大臣表彰

滝口茂柴田町長が受賞



柴田町長
たきぐち しげる
滝口 茂氏

10月5日令和4年度総務大臣表彰が行われ、宮城県から滝口茂柴田町長が受賞されました。

この表彰は、市町村長として長年にわたり在職するとともに、地方自治の発展に貢献された方に対して総務大臣が表彰するものです。

滝口町長は2002年7月柴田町長に就任され、現在6期目。仙南地域行政事務組合の管理者を務められるなど、地方自治、地域振興の発展に尽力されており、本会の監事も務められました。

プロフィール

- 2002年 柴田町長(1期)
- 2006年 柴田町長(2期)
- 2010年 柴田町長(3期)
- 2014年 柴田町長(4期)
- 2018年 柴田町長(5期)
- 2022年 柴田町長(6期)

災害共済加入推進会議

10月3日と5日の両日、県自治会館において災害共済加入推進事務説明会を開催しました。

各市町村や一部事務組合の共済事務担当者などの出席により開催された会議では、①公有建物・自動車共済事業 ②災害対策費用保険 ③総合賠償補償保険 ④非常勤職員公務災害補償保険 ⑤自治体委託業務等災害補償保険 ⑥職員任意共済(生命・医療・収入補償)保険 ⑦職員個人年金共済 ⑧

全国町村職員生活協同組合の各共済事業(火災共済・自動車共済・特定疾病保険・生活総合保険)の制度の概要などについて説明しました。



町村長選挙

任期満了に伴う七ヶ宿町長選が9月13日に告示され、現職の小関幸一氏が無投票により当選されました。

七ヶ宿町長

小関 幸一氏
こせき こういち



プロフィール

- 1952年 七ヶ宿町生まれ
- 2014年 七ヶ宿町長(1期)
- 2018年 七ヶ宿町長(2期)
- 2022年 七ヶ宿町長(3期)
- * 9月24日就任

「小さくとも基礎自治体として持続可能な七ヶ宿町」の実現

人口減少と少子高齢化に対する積極的対策を推進します。産業を活性化し、雇用を拡大し、若者の移住定住を促進し、都市との連携と交流を活発にします。このような取組みを継続していくことで、町民が安心して暮らせる環境をつくり、持続可能な町を実現して参ります。

町村会日誌

9月

- ▼8日 全国町村会正副会長会、全国町村会理事會、都道府県町村会(全国町村会館) 櫻井会長出席
- ▼15・16日 災害共済事業加入推進打合せ(全国町村会館)
- ▼18日 市町村職員採用統一試験(初級)
- ▼27日 行政課題研修Ⅱ(県自治会館)
- ▼10月3・5日 災害共済事業加入推進会議(県自治会館)
- ▼6・7日 副町長研修(山形県舟形町ほか)
- ▼11日 各種団体の法令外負担金適正化会議(県自治会館)
- ▼13日 移動研修(巨理町) 櫻井会長出席
- ▼14日 正副会長会議・政務委員会・町村長会議(県自治会館)
- ▼18・19日 北海道東北六県町村会会長会議(山形県上市市) 櫻井会長出席
- ▼20日 全国町村会正副会長会、全国町村会理事會、都道府県町村会(全国町村会館) 櫻井会長出席
- ▼25・26日 町村長視察研修(神奈川県松田町・大井町)

令和4年度各種団体の 法令外負担金適正化会議

56団体からの要請を協議

10月11日、県自治会館において令和4年度各種団体の法令外負担金適正化会議を開催いたしました。

この会議は、市町村が経費を拠出している各種団体の法令に基づかない負担金について、その適正化を図



法令外負担金適正化会議

ることを目的に開催しており、県市長会と本会が共同で設置しています。各市町村の財政担当課長及び地方町村会事務局長が出席し、関係56団体から要請されている令和5年度負担金について協議しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、2年ぶりに対面で開催された当会議ですが、協議の結果、減額要請2団体、付帯意見付き承認10団体を含む54団体の要請について承認することとしました。

市町村職員採用統一試験

令和4年9月18日、県自治会館とTKPガーデンシティ仙台などを会場とし、市町村職員採用統一試験を実施いたしました。

本会対応分は、21町村2組合について募集を行い、あわせて339名が試験に挑みました。

試験は各募集団体、職種試験ごとに行われました。

行政課題研修Ⅱ

令和4年9月27日、県自治会館において、行政課題研修Ⅱを実施しました。

町村が抱える行政課題に的確に対応するための知識の習得を目的に開催していますが、今回は職員の分限・懲戒の理論と実際について研修会を行いました。

講師（一財）公務人材開発協会

業務執行理事 鵜養 幸雄氏

研修内容「分限・懲戒について」

第1部：分限・懲戒の基本的な法令等の確認

第2部：分限・懲戒に関する各町村の

個別事例について、講師や他の町村担当者との意見交換

第1部では、分限・懲戒について、法令の解説、分限処分・懲戒処分の比較などについてわかりやすく解説していただくとともに、制度上の留意点などについて講義いただきました。

第2部では、分限・懲戒の各処分の個別事例について講義いただき、その後意見交換を行いました。

今回の研修には、各町村や一部事



鵜養幸雄先生

務組合の人事担当職員や研修希望者など32名が出席し、熱心に耳を傾けていました。

受講者の反応

●分限・懲戒を判断する際に基本に返って考え、どの理由に当てはまる事案なのか、手続きが適正であったかが重要であることが分かりました。

●個々の質問に具体的に教示していただいていたので分かりやすかった。

●分限・懲戒の部分については、人事・給与と携えて見ることが多かったため改めて勉強になりました。

先進的な地域振興策を実践している 地方公共団体を視察

令和4年10月13日、亘理町において移動研修を実施し、13町村から20名が参加しました。

亘理町では、観光拠点である荒浜地区をこれまでと違った観光エリアとして、なにが魅力的で効果的なのかを調査し、同地区一帯の構想「WATARI TOWN BAY AREA CONCEPT」を策定しました。

また、構想に基づく事業を具現化し進めていくため「亘理町民間提案制度」により株式会社ワンテールが提案した「WATARI TRIPLE C PROJECT」を採用し、令和3年度から10年間の計画期間で、同地区のプロジェクトをスタートさせました。

今回の研修は、「WATARI TOWN BAY AREA CONCEPT」及び「WATARI TRIPLE C PROJECT」の概要解説と、現場で活動している地域おこし協力隊員の体験談や亘理町との関わりについて説明を受け、現地視察を実施しました。

●研修1

「WATARI TOWN BAY AREA CONCEPT」

及び「WATARI TRIPLE C PROJECT」について

亘理町企画課 猪股裕二郎 氏

●研修2

「物」から「事」へ。人から創造する商品開発」について

亘理町地域おこし協力隊員 松本 啓祐 氏

●研修3

鳥の海パークサイドエリア等視察

研修1では、「WATARI TOWN BAY AREA CONCEPT」の意味と、「亘理町民間提案制度」による株式会社ワンテールが提案した「WATARI TRIPLE C PROJECT」において、亘理町がどのように支援しているのか、亘理町企画課猪股 裕二郎氏が解説しました。「WATARI TOWN BAY AREA CONCEPT」とは亘理でしかできないコトを磨き上げる「鳥の海エリアの観光構想」のことで、同コンセプトを具現化するべく、ワンテールと業務委託契約を行いました。ワンテールが町に代わって地域おこし協力隊員の募集・選考を行い、町は協力隊員を委嘱する仕組みになっています。協力隊員に就任したプロスケーターやアーティストなどは各自の得意分野で、地域を巻き込みながら人を呼び込む活動を行っており、令和12年度までに、年間20万人の集客や50人以上の雇用創出、定住促進、亘理ブランドの認知度向上などの目標を掲げています。

続いて研修2では、「物」から「事」へ。人から創造する商品開発」と題して、亘理町地域おこし協力隊として活動している、

松本啓祐氏が講演しました。松本氏は現在、前職などの経験を生かし、亘理町産のリンゴを用いたアップルパイの製造を行っており、「KIBOU」と名付けたその商品は、亘理町リンゴ農家の希望・後継者不足の解消となる希望・規格外品の価値向上に対する希望・協力隊事業への希望などたくさんの思いが込められているということです。ECサイト等の販売を通じて認知度向上を図っており、販売実績を積み上げております。また、菓子製造のほかにも将来は、亘理町にきた協力隊員の任期満了後の居場所を作りたいとおっしゃっておられました。

続いて研修3では、鳥の海パークサイドエリアを視察しました。

スポーツパークとして整備している野球場・サッカー場を視察し、その後、スケボーエリアに移動、地域おこし協力隊員のプロスケーター石塚佑太さんと西村詞音さんの実演と、現在建設中のスケボーパークを見学しました。スケボーパークはプロスケーターの意見を元に建設されており、将来はスケーターやファンなど多くの集客を見込んでいます。

続いて、「SEASIDEBASE」に移動し、地域おこし協力隊員であるシンガーソングライター畠山有紀さんと、ソーシャルアーティスト、キム・テボンさんの活動が紹介されました。畠山さんは仙台で情報番組のリポーターなどを努めながらシンガーソングライターとして精力的に活動しておられ、この日は亘理町をテーマにした楽曲を披露していただきました。キムさんは幼少期の経験から、触れたり遊ぶことができる作品を主に製作しており、創作活動の工房を見学させていただきました。製作途中の作品にも触らせていただきました。

次に、整備中(当時。その後10月22日オープン)のコンテナでできた、カフェ・横町エリアを見学しました。協力隊の松本さんからの説明によれば、自分たちの手で内装を行い、亘理町の食材を活用したメニュー開発や、畑やガーデニング作りの講師として地元住民を招くなど、町民を巻き込んだエリアづくりを構想しているとのことでした。

こうして様々な新しい取組を実践している亘理町での移動研修は、充実した中で終了しました。



地域おこし協力隊 松本啓祐氏



カフェ・横町エリア



標高約40mの地山により、市街地付近でありながら自然災害に強い場所を提供



インターチェンジ直結により地区へのアクセス機能が向上



県内沿岸部の中央に位置し、多方面へのルート選択が可能

松島町では古来より風光明媚な地として日本三景の一つに数えられ、雄大な自然が生み出す美しい景観を有しており、多くの魅力に溢れた観光地となっています。一方で、町内にJR駅が7駅あり、インターチェンジは、近隣のものも含めると3箇所あるなど交通の利便性に恵まれた町でもあります。松島町ではこれらの地域特性を活かした工業用地『松島イノベーションヒルズ』の整備に関する計画をこれまで進めてきておりますが、来年度から本格的に現地における工事に着手し、令和7年度での

この工業用地を整備することで、立地企業にとってもこれからの時代で重要となる脱炭素やBCPなどの取り組みにおいても有利となる、新たな価値の創造(イノベーション)に繋がる工業用地づくりを目指していきます。

松島町は古来より風光明媚な地として日本三景の一つに数えられ、雄大な自然が生み出す美しい景観を有しており、多くの魅力に溢れた観光地となっています。一方で、町内にJR駅が7駅あり、インターチェンジは、近隣のものも含めると3箇所あるなど交通の利便性に恵まれた町でもあります。松島町ではこれらの地域特性を活かした工業用地『松島イノベーションヒルズ』の整備に関する計画をこれまで進めてきておりますが、来年度から本格的に現地における工事に着手し、令和7年度での

工事完了を目指しています。共用面積は約27haとなり、オーダーメイド方式により企業の皆様に提供します。整備地区は自然災害に強い地盤を有しており、併せて、インターチェンジと直結し、地区内外へのスムーズなアクセスが可能となる道路を計画しています。

町村通信

21

松島町

◆ 県内21の町村からお伝えします

『松島イノベーションヒルズ』始動 松島町に新たな工業用地が誕生します!!

町村会の予定

11月

- 10日 県知事、県議会議員に対する県予算等の要請活動
県要望に関する要望事項説明会、意見交換会
- 14日 東部地区(北海道東北関東)町村会会長会議
- 16日 全国町村会正副会長会議、理事会
- 17日 全国町村長大会
宮城県関係国会議員要望実行運動
国会議員・知事・県議会議員と町村長意見交換会
- 24日 宮城県市町村非常勤消防団員補償報償組合議会
- 30日 全国町村会正副会長・監事合同会議
全国町村会正副会長会

12月

本会主催の行事等はありません。

*新型コロナウイルス感染予防のため、日程が変更になることがあります。

共済事業アレコレ

個人年金共済について

ゆとりある老後生活のために、
「年金共済」をぜひご活用下さい。

個人年金共済は、公的年金だけでは老後が不安だと思われる方、近い将来のための蓄えとしたいと考えているための保険で、2種類のコースが設定されています。

1. 税制適格コース

加入資格は、掛金払込予定期間が10年以上ある方です。

2. 一般コース

加入資格は、掛金払込予定期間が1年以上ある方です。

※「税制適格コース」は老後の生活資金確保のため、「一般コース」は近い将来のための蓄えとして、ご活用いただくことをお勧めします。

※掛金は、月払1口2,000円以上、ボーナス払1口10,000円以上で、それぞれ自由に設定することができます。(ボーナス払のみでの加入はできません)

11月中旬から～1月4日まで新規加入者の募集を行っております。

詳しいお問い合わせは、団体担当者または下記までご連絡ください。

宮城県町村会事業推進課 TEL 022-221-9203